

圏外のアンテナ

[いつ恋]の巻

先々週の月曜日、スマホでツイッターを眺めていると、郡山市のキャラ「がくとくん」が、ぼつねんと湖畔に立って、雪山を見つめている画像が目にとまった。

この風景は、湖南町からの猪苗代湖に違いない。

横の文面には「たぶんこのロケーション！ 月9「いつ恋」第5話は今夜9時放送～」と書かれている。

へえ、今夜、ふくしまでロケしたドラマが放映されるんだ！ 気になったわたしは、久しぶりに「月9」にチャンネルを合わせた。

フジテレビ・月曜・9時台のこの枠は、トレンドードラマ全盛期に一世を風靡（ふうび）したが、最近では、のぞき見する事さえなくなっていた。

その日は第1部の最終話だったようで、ふくしま出身の練（れん）が、同じ運送屋に勤める同郷の先輩に、1日だけ休暇を！と、懇願するシーンがあった。

最初は、土下座して見せろとそっけない先輩だったが、二人の会話が「ソースカツ丼、酪王カフェオレ、ままだおる…」と、食の連想ゲームのようになるにつれ、「ずるいなあ、おまえだけ。勝手にしろ。帰れ、帰れ！」と言い放つ。言葉は乱暴だが、男臭い優しさが味になっている。

ドラマは、高速バスで会津に着いた練がとぼとぼと湖畔まで歩き、雪の磐梯山を見つめる、「がくとくん」おすすめのシーンで、しっかり盛り上がり、見ているこちらもほっとした。

里帰りには、やはり、すべてを受け入れてくれる、毅然とした「山」が必要なのである。

さて、その日以来、忘れ掛けていた、酪王カフェオレの味の記憶を、頭と舌が思い切り追憶している。

ふくしまのものというだけで、今まで普通と思っていたものが、突然、何か特別な存在に姿を変える。

久しぶりの「月9」を見て、不思議な気持ちになったのだった。

=2016年3月1日掲載=



数日後、偶然にも秋葉原駅の自販機で、酪王カフェオレを発見